

2019年度

【一般入試(手続期間長期型)】

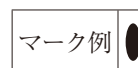
3 限 目

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は1部、解答用紙は1枚です。
3. 出題科目、ページおよび選択方法は、下表のとおりです。

出題科目	ページ	選択方法
物理基礎・物理	1 ～ 6	解答科目は、選択できる科目を受験票で確認のうえ、選択しなさい。
化学基礎・化学	7 ～ 13	
生物基礎・生物	15 ～ 21	
国 語	国語 1 ～ 国語20 (うしろから始まります)	

4. 解答は全てマークセンス方式です。マークは黒鉛筆(シャープペンシル可)で右の例のように正しくマークしてください。



5. 解答用紙には解答欄のほかに次の記入欄があります。

(1)受験番号欄

受験番号を受験番号欄の上欄に算用数字で記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

(2)解答科目選択欄

解答する科目を1つだけ○で囲み、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

※受験番号および解答した科目が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

6. 記入したマークを訂正する場合は、プラスチック製消しゴムで完全に消し、改めてマークしてください(消しくずを残さないこと)。
7. 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしてはいけません。
8. 解答用紙の※印欄はマークしてはいけません。
9. 問題冊子と解答用紙にページの落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所や汚れなどがある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

③ 学生時代は月に一度の贅沢^{ぜいたく}だったボークソテー定食を二十年ぶりにオーダーして食べたみたが、これが贅沢^{ぜいたく}だったなんて信じられないほど普通の味で、期待外れもよかったこと。

④ 十八歳から人生をやり直したら、今の家族はいないことになるにもかかわらず、その家族を前提として、社会的、金銭的な成功よりも大切なものをつかむことを想像したこと。

⑤ もう一度人生をやり直すことができるとしたら、どこからだろう、といくら考え続けても、誰からも一向に得心のいく答えが得られず、今後の人生を見定めることができなかったこと。

問八 傍線部6「自動ドアの閉まる音が、古いアルバムを閉じる音に聞こえた」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

①～⑤の中から一つ選びなさい。

① 「もう一度人生をやり直せたら——」という甘い言葉に酔いしれていたが、後ろからクラクションを鳴らされて我に返り、今の自分の置かれている厳しい状況が再確認できた、ということ。

② 「もう一度人生をやり直せたら——」という甘い言葉に酔いしれていたが、そんな夢が現実になって、もう一度人生を積み上げていくとしたら、とんでもないことになると恐れおののいた、ということ。

③ 「もう一度人生をやり直せたら——」という甘い言葉に酔いしれていたが、そのための月々二万円の出費は大変で、もっと仕事に励まないといけないと気を引き締め直した、ということ。

④ 「もう一度人生をやり直せたら——」という甘い言葉に酔いしれていたが、後ろからクラクションを鳴らされて、静かに感傷にもひたらせてくれない現実の厳しさに意気消沈した、ということ。

⑤ 「もう一度人生をやり直せたら——」という甘い言葉に酔いしれていたが、これはきつと夢想するだけだからよいのであり、思い出にひたるのもこれぐらいにしておこうと思い直した、ということ。

問五 傍線部3「いい加減なもんだ。でも、ひとつの真理」とあるが、このとき伸郎はどういう気持ちであったか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(54)

① 今週で会社を辞める山城とは、もう一度「お別れ馬券」を買う約束になっているのだから、ここで彼のいい加減な言動を取り立てて、事を荒立てる必要があるまい、という気持ち。

② 山城の、馬券がはずれたときと当たったときの言葉の豹変^{ひょうへん}ぶりには苦笑するほかないが、それぞれの言葉は、意外と人生の本質をうまく衝^ついていて、納得されるところもある、という気持ち。

③ 今はチップを全額ポケットに入れられるようになって、財布には余裕があり、少しばかり馬券がはずれても問題はなく、山城の言い訳に目くじらを立てる必要があるまい、という気持ち。

④ 馬券をはずしたときに言う、山城の言い訳は噴飯物だが、たまに馬券が当たったときに言う彼のセリフには、何とも言えない味わいがあつて、そんな彼を憎みきれないものだ、という気持ち。

⑤ 先週の日曜、山城から必ず来ると言われた馬券は見事にはずれしたが、山城の逆を買えば当たり馬券になる気もするし、次を当てればいいとでも考えなければやっていられない、という気持ち。

問六 傍線部4「こたえる」と意味用法が最も近いものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(55)

① 声援にこたえる。

② ドアをノックしたが誰もこたえない。

③ こたえられない旨さ。

④ 失敗が身にこたえる。

⑤ 彼の好意にはこたえたい。

問七 傍線部5「頭が混乱した」とあるが、伸郎は何に対して頭が混乱したと感じているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(56)

① かつては、口では否定しながら周囲に羨^{うらや}まれることが人生の成功だと考えていたが、そんなものにはなんの価値もないことに四十三年間生きてきて、ようやく気づいたこと。

② 大学三年、就職を決めるところからもう一度人生をやり直すことができるとしたら、おそらくなぎさ銀行の連中もわかばタクシーの面々もない人生になると想像されたこと。

空欄 V	① 温和な	② 勇ましい	③ 忠実な	④ 馴れ馴れしい	⑤ 勝ち気な
空欄 VI	① 遠慮がちに	② 奇しくも	③ 気恥ずかしく	④ 誇らしげに	⑤ ぬくぬくと
空欄 VII	① 不親切	② 不案内	③ 不可解	④ 不可能	⑤ 不透明
空欄 VIII	① 脅して	② 恩に着て	③ 持てはやして	④ 競って	⑤ 釣って
					(40)
					(41)
					(42)
					(43)

問三

空欄	あ	い	に入る漢字と同じ漢字が	に入るものを、次の各群の ①～⑨の中からそれぞれ三つ選びなさい。
空欄あ	①	から出たまこと	② 白昼	③ 八百をならべる
	④ 一千里	⑤ 邯鄲 <small>かんたん</small> の	⑥ 蜀 <small>しよく</small> の嘆	
	⑦ 同床異	⑧ も方便	⑨ 太公	(44)
				(45)
				(46)

空欄い

① 一挙	一投足	② 彼は何でも	負い込む	③ 鎌	をもたげる
④ 二律	反	⑤ 猫の	に鈴をつける	⑥ 鬼の	を取ったよう
⑦ 下	の長談義	⑧ 眼光紙	に徹する	⑨ お	並み拝見
					(47)
					(48)
					(49)

問四

傍線部1「やけに」、傍線部2「馬鹿にならない」、傍線部7「二の次で」、傍線部8「常道」の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の ①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

傍線部1	① 人並みに	② むやみに	③ 必ず	④ 不相応に	⑤ 先ず <small>ま</small> 先ず
傍線部2	① 慰められる	② 無視できない	③ 困らない	④ 有り難い	⑤ 心に響く
傍線部7	① もたついて	② いい加減で	③ 後回しで	④ あまり時間を掛けないで	⑤ 不得意で
傍線部8	① 今時の方法	② 苦手な分野	③ 便宜上の手段	④ 普通のやり方	⑤ 独自の流儀
					(50)
					(51)
					(52)
					(53)

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ① トウセイ経済

② 新人をトウヨウする

③ トウホンセイソウ

④ トウキテキナ試み

⑤ トウザ預金

B ① 御リンセキを仰ぐ

② ジンセキミトウ

③ ショクセキを全うする

④ セキネンの恨み

⑤ カンセキの素読

C ① メイテツホシン

② 大臣をコウテツする

③ 民主主義のテツソク

④ レイテツな判断

⑤ ハクシテツカイ

D ① 仕事をホサする

② 行儀サホウ

③ 閑職にサセンされる

④ 海上フウサ

⑤ 火星タンサ

E ① 二十年マンキの保険

② 本領をハツキする

③ キエンを上げる

④ キセンを制する

⑤ 三種のジンギ

問二 空欄 Ⅰ ～ Ⅷ に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄Ⅰ ① 非業の死を遂げたのだ

④ 不帰の客となったのだ

空欄Ⅱ ① 羽振りのいい

空欄Ⅲ ① 腕

空欄Ⅳ ① ひやかし

② 死に損なつたのだ

⑤ 死に花を咲かせたのだ

② 愛想のいい

② 目処

② たらし込み

③ 命拾いをしたのだ

③ 小気味のいい

④ 趣味のいい

④ 顔

④ 取り持ち

⑤ の中からそれぞれ一つ選びなさい。

⑤ 歯切れのいい

⑤ 角

⑤ 角

⑤ なだめすかし

(34)

(35)

(33)

(32)

Ⅰ

Ⅷ

(39)

(38)

(37)

(36)

「初心者の方ですと——そうですね」

タクシー乗務員の制服をちらりと眺めて、いちばん安いグローブを差し出してくる。

「そっちでいいです」

軟式でいちばん高い一万二千円のほうを指さして言った。モノで VIII 子どもとコミュニケーションをはかる。ダメな親の常道⁸だが、とりあえずそこからだ。

包装を待っている間、流れてくる店内のBGMに耳を澄ませていた伸郎は、店員に声をかけた。

「これって、サンボマスターの『青春狂騒曲』ですよ」

伸郎と同年輩の店員が い をひねる。「さあ」

ふっふっふ。

「あ、軟式のボールも二つ。それと、MDウォークマンはどこで売ってるんでしょう」

（萩原浩「あの日にドライブ」より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある）

注1 律子…伸郎の妻。銀行へ勤め出してから知り合った。長女・朋美、長男・恵太。朋美は中学校1年生。ちよつと難しいお年頃で、今は音楽に夢中。

2 白藤ハイツ…伸郎が大学時代から住んでいたアパート。当時借りていた部屋を伸郎は借りてみようと目論^{もくろ}んでいる。現在の家賃は一月二万円。

3 山城…「わかばタクシー」の同年配の同僚。伸郎と相番（同じ車両を使うパートナー）で、伸郎のことを唯一「マッキー」と呼ぶ。競輪選手だが、今は、怪我^{けが}で、タクシードライバーをしている。

4 院づけ…客を病院まで送ること。 5 足切り…売上げが少なくて解雇されること。

6 营收…「営業収入」の略。 7 ロング…遠距離乗車の客。

トが主役で、中央のいちばんいいところへ

VI

置かれていたものだが。

グローブは案外に高い。安いものでも八千円台。いま手にしているものなど、少年用だというのに、二万円以上する。どうせなら高いものを買ってやりたいが。うむむ。

品定めは二の次で、⁷値札を眺めていると、エプロンをつけた店員が近づいてきた。

「グラブですか」

「ええ、息子に」いい父親の顔をして、ちょっと胸をそらせた。「小学三年生なんだけど、どれがいいのか」

「硬球用ですか」

「は？」

店員は伸郎が手にとったグローブに視線を落としている。

「そちらは硬球用ですが。少年野球をされているお子さん向けです」

ああ、なるほど。だから高いんだ。元野球部員とはいえ、最近の用具のことはまるで

VII

だ。

「軟式のほうで」

「外野手用、それとも内野手用ですか」

どっちがいいだろう。どっちでもいいのだが。とりあえず伸郎と同じ、内野で行くことにする。^Eキビン^{||}なのは指先だけの恵太が、自分の果たせなかった夢を受け継いでくれる可能性はかなり低そうだが、人生は何が起きるかわからない。

内野用のグローブは三種類。伸郎にはどれも同じに見えた。店員は熱心にひとつひとつを説明してくる。野球が好きらしい。年齢は伸郎と変わらないだろう。野球がスポーツの王様だった頃に少年時代を過ごしたクチだ。

「どれがいいんですか。最近のは、よくわからなくて」

「お子さんは何年ぐらい野球をやられています？ それにもよりますが」

「グローブを使うのは、ほぼ初めてなんで、初心者用というのがあれば、それを……」

伸郎自身も、いい父親の初心者だ。

「初めて」

いままで何をやってたんだお前は、と言われた気がした。子どもとキャッチボールぐらいしてやるのは、父親の務めだろう、と。

待てよ。

伸郎が十八歳からやり直したら、律子も朋美も恵太もないのだ。なぎさ銀行の支店で外回りをしていたから、律子に出会い、朋美と恵太が生まれたのだ。ということは――

⁵頭が混乱した。人生は一本道じゃない。単なる曲がり角ばかりの道でもない。もっと複雑怪奇だ。タクシードライバー泣かせの世田谷の裏道以上に。やっぱりジョギングを再開するべきだろうか。運転シートに座ってばかりだから、早足をしただけで息が切れた。久しぶりに動いた体に驚いて、慢性化している背中の痛みも始まった。

白藤ハイツは、まだ建っていた。一カ月前と同様、いや二十年前とほぼ同じ姿で。息を整え、腰をさすり、二十年前とは違う自分の体をながら伸郎は考えた。

もう一度人生をやり直せたら――

甘美な言葉だが、きつと夢想するだけだからいいのだ。本当にそんなことが現実になってしまったら、たまったもんじゃない。どんな中味の積み荷だろうと、一度積み上げた荷物をもう一度、最初から積みと言われるのと同じだ。

古びたボロアパートを眺めながら、伸郎は首をかしげた。月々二万円を払って、自分は何を買おうとしていたのだろうか。

クルマに戻り、かつて暮らした街を隊長さんの速度で走った。後からクラクションを鳴らされたが、オールバックにした頭を突き出して振り向いたら、女を乗せた^ツ2シーターは、伸郎のクルマを迂回^{うかい}するように遠慮がちに追い越しをかけていった。

静かに眺めさせろよ、感傷にひたっているんだから。懐かしい街が窓の外を時速三十キロで流れていく。

不動産屋の手前で客が手をあげている。伸郎は

V

番犬みたいに路肩へすり寄り、^{*}7ロングであることを願って後部座席に声をかけた。

「どちらまで行きましょう」

⁶自動ドアの閉まる音が、古いアルバムを閉じる音に聞こえた。

スポーツ用品売り場は、スーパーマーケットの二階の隅にあった。

路上でたまたま見かけて入った、東京の道のどこを走っても看板が目につくスーパー。野球用具が置かれていたのは、隅っここの売場のさらにいちばん奥だ。金属バットは段ボール箱へムゾウサ^Dに差し入れられていて、グローブは棚の上に乱雑に積まれている。昔のスポーツ用品売り場では、グローブやバッ

IV

う決めていた。

二十年ぶりに入った洋食屋の内装は古びてはいたが、伸郎の記憶の中のものとは違っていた。黒と金を基調にしたインテリアは、バブルの頃に改装したものだろう。学生時代は月に一度の贅沢^{ぜいたく}だったポークソテー定食をオーダーする。

昔の自分がいとおしくなる味だった。これが贅沢^{ぜいたく}だったなんて。伸郎にグルメ趣味はないが、二十年の間にいろいろなものを食いすぎたのかもしれない。あれほど懐かしかったポテトサラダも、あらためて食うと、なんのヘンテツ^{へんてつ}もない味だ。若い頃は好ましかった油っぽさが、四十過ぎの胃には少々こたえる⁴。店を出た伸郎は、ゆっくりぶらつきながら白藤ハイツまで歩くことにした。

和菓子屋に寄って、みたらし団子を一本だけ買った。値段は記憶の倍になっていた。味は昔と変わらない——と思う。忘れてしまった。何しろ二十年前だ。スーパ―銭湯に変わってしまった「越後湯」は昼間から営業しているようだった。不動産屋の帰りにひと風呂浴びて行こうか。今日はまだノルマ超えの

Ⅲ

が立っていないなかったが、焦りはない。どうすればうまくいくか、いまの仕事を把握しているからだ。運に頼らず、読みをずばりと当てる。だめな時は運だと思っであきらめればいい。

いつ取り壊すかわからない。不動産屋の言葉を思い出した、伸郎の足は少しずつ早くなっていく。

足早に歩きながら考えた。このところずっと考えていることだ。

もう一度人生をやり直すことができるとしたら、どこからだろう。

大学三年、就職を決めるところから？

おそらくなぎさ銀行の連中もわかばタクシーの面々もない人生になるだろう。うむむ。悪くない。

初めて東京に出てきた十八の春から？

恵美もない。大学のサークル仲間もない。そのかわり、別の出会いがあっただろう。伸郎にはあらゆる可能性がある。たくさん曲がり角が待ち受けている。手にはまだ何も握っていないが、それなりの努力をし、出会いに恵まれれば、どんなものをもつかむことができる。別に社会的、金銭的に成功しなくたっていい。

かつての伸郎は、口では否定しながら周囲に羨まれる^{うらやま}ことが人生の成功だと考えていた。でも四十三年間生きてきて、ようやく気づいた。そんなもの、なぎさ銀行のスローガンやわかばタクシーの社長訓話同様、なんの価値もない。

もっと大切なものをつかむのだ。そうすれば、贅沢はさせられないかもしれないが、家族にだって何かを与えることができる。律子は反対はしないだろう。朋美や恵太だってわかってくれるはずだ。

あだ名は「博士」¹。理科の成績だけやけによかったからだ。父親は漁師だったが、自分は跡を継がず、魚の研究をしたいと言っていた。そうか、萱島は少年時代の夢のとりの職業に就いたわけだ。

萱島の顔を思い出そうとした。浮かんでくるのは、練習中に落ちないようにとベルトをつけた銀縁眼鏡と、えらの張った四角い顔の輪郭ばかりだ。細部はピンボケ写真のようにぼやけている。^{*1} 律子は、小学校時代の友だちの顔だっと思ひ出せると言うが、転校が多かった伸郎は、誰もの顔もピンボケだった。自分の思いどおりの職業に就いたのに、その仕事のために命を落とすなんて。

いったい人生ってやつは、誰がどうやって動かしているのだろう。伸郎は思わず道の向こうに広がる空を見上げてしまった。

東京の空はいつものように青と灰色をまぜた色合いで、フロントガラスに薄く自分の影が映っているだけだった。

六本木で客を降ろした後、天現寺橋にクルマを向けた。

^{*2} 白藤ハイツへ行くつもりだった。ポケットの中には礼金一カ月分と家賃一カ月分、計四万円。

今月の伸郎の財布には若干の余裕があった。律子には必要経費だと説明して、月々の洗車代は小遣いとは別口でもらっているから、その一万二千元がまるまる浮いた。先月の途中から^{*3} 山城には洗車代を払っておらず、そのぶんと合わせて、プラス二万円少々。そして最近、ちょっとした副収入もある。客からのチップだ。チップと言っても、たいていは客がつり銭を面倒くさがった場合のわずかな差額のことだが、^{*4} 院づけの年寄りや退院患者の乗り降りを手伝うと、ワンメーター分ぐらいを渡してくれることもあるし、

II

長距離客と会話がはずめば、チップが札になることもある。

以前は客からチップをもらっても、ノルマに近づけるために、あるいは^{*5} 足切りを逃れるために、そのぶんを走ったこと²にして^{*6} 営収に加算していた。その必要がなくなったいまは、全額ポケットに入れている。案外これが馬鹿にならない。いままでにためたチップを加えると、浮いた金はトータルで二万七千六百円。一万円ちよつとの持ち出しはあるが、まあ、なんとかなるだろう。先週の日曜、山城から必ず来ると言われた馬券は見事にはずれたが、次を当てればいい。山城の逆を買えば来そうな気がする。

馬券をはずすと山城はこう言う。「こういうのって運だからしかたない。あきらめるしかないよ」たまさか当たった時にはセリフが変わる。「やつぱり読みがずばりだ。運に頼ってたら、勝負には勝てないんだよ、マッキー」

³ いい加減なもんだ。でも、ひとつの真理。

今週で会社を辞める山城とは、もう一度「お別れ馬券」を買う約束になっている。

幹線道路を左折し、古びた商店が並ぶ通りに入った。脇道にそれ、洋食屋の前でクルマを停める。不動産屋へ寄る前に、ここで昼飯を食おう。朝からそ

Ⅱ

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四〇点)

牧村伸郎、四十三歳。なぎさ銀行のエリート行員だった伸郎は、ある事情で退職し、今は仕方なくタクシーの運転手をしている。昼夜逆転の生活で、転職もままならない。偶然、大学時代を過ごした街を通りかかって、昔のこと、元恋人の恵美のことなどを思い出し、もう一度人生をやり直すことができたらしに思いに耽る伸郎であった。しかし、彼が勤務する「わかばタクシー」の最高齢ドライバーの「隊長さん」から仕事のコツを学ぶうちに、仕事や家族のことを考え直していく。

ぼんやり聞いていたカーラジオが、昨日の飛行機墜落事故の続報を伝えている。ニュースはさつきからこの事故のことばかり。墜落したのはロシアの内線なのだが、テロとの関連性が噂されることと、なにより少なくない数の日本人乗客の死亡が確認されたためだ。

——この事故で亡くなった日本人乗客のお名前は次のとおりです——

アナウンサーが^Aトウショウ株価を伝えるような声で、ひとりひとりの名前を呼び、簡単なコメントをつけくわえている。

そう言えば、昔、銀行の同僚が海外出張した時、その男が乗っていた便が墜落して、大騒ぎになったことがある。

事故直後、その男からの電話を受けた人間は、幽霊かと思ったそうだ。渋滞に遭ってフライト時間に合わなかったために、I。乗るはずだったのはその日の最終便だった。その男が助かったということは、キャンセル待ちをしていた誰かが、自分の幸運に酔いしれて、数時間後に墜落することになる飛行機に乗りこんだわけだ。人生は本当にわからない。

——カヤジマシンイチロウさん。四十三歳。

聞き流していたアナウンサーの声が、耳のそば口にひっかかった。カヤジマシンイチロウ？ 聞いたことのある名前だ。年齢も伸郎と一緒に。

——カヤジマさんは千葉県銚子市在住。水産研究所職員で、海外視察中に事故に巻き込まれました。

萱島。関東では珍しい苗字^B。銚子に住み、水産研究所勤務。間違いない。萱島信一郎だ。

かつて二年生までザイセキ^Bしていた中学のクラスメート。同じ野球部員だった。

ポジションはサードで、長打力は伸郎以上だった。守備に難があつて、二年の時にはレギュラーになれなかったが、来年は伸郎と二人で三遊間を守り、どちらかが四番を打つ。二人がいれば県大会優勝だってあじゃない。誰もがそう言っていた。伸郎が転校してしまって、それは果たせなかったが。

② 地震や津波などの自然災害を防ぐことは、われわれには不可能であるが、進みゆく地球環境劣化というマイナス面をいかに減らしていくか、ビッグデータを応用したノウハウの研究開発と対策は、われわれ先進国の住民だけの責務ではない、ということ。

③ 地震や津波などの自然災害を防ぐことは、われわれには不可能であるが、グローバルな産業化と経済発展にともない、急速に進行しつつある地球環境の劣化というマイナス面ばかりに注目が集まるのは問題ではない、ということ。

④ 地震や津波などの自然災害を防ぐことは、われわれには不可能であるが、ゲリラ豪雨や河川氾濫などのような現象を勘案すると、それらが地球温暖化や森林破壊をはじめ、人為的な誘因と関連していることを忘れてはならない、ということ。

⑤ 地震や津波などの自然災害を防ぐことは、われわれには不可能であるが、放射性廃棄物だけでなく、各種の工場廃棄物やクルマの排気ガスによる大気汚染や水質汚染、土壌汚染を何とかすれば、状況は明らかに好転する、ということ。

問八 傍線部6「われわれ一人一人が有益なデータの形成に参加することが、ビッグデータ活用の鍵をにぎるともいえる」とあるが、筆者は、ビッグデー

タの時代に「われわれ」はどうあるべきだと考えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(30)

① ビッグデータ時代には、われわれ一般人は、一種の「コミュニティ（共同体）」のメンバーであるという意識をもつべきである。

② ビッグデータ時代には、身体に関するさまざまなデータを定期的に医療機関に送信して、医師から助言をもらうべきである。

③ ビッグデータ時代には、孤独な都市住民という見慣れた光景は必ずしもあてはまらないものと、時には自覚すべきである。

④ ビッグデータ時代には、スマホだけでなく各種のウェアラブル端末を介して、各種の身体的なデータを医療機関に送るべきである。

⑤ ビッグデータ時代には、「スマートシティ（頭のよい都市）」を実現するために、われわれ一般人もビッグデータの分析を行うべきである。

問五 傍線部2「これは人脈ならぬ貴重な『金脈』だ」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(25)

- ① 個人向けのターゲティング広告をはじめ、ピンポイントにしばったマーケティング戦略によって、個人の好みをふまえた、多様なカスタムメイドの商品やサービスを充実させれば、消費活動は活性化するから。
- ② 日常、スマホやパソコンを手放せないわれわれの活動履歴は、インターネットのなかにしつかり埋めこまれており、ビッグデータによって、グル社が行っているような「個人向けマーケティング」をさらに徹底することができるから。
- ③ ある人が、どんな所に住み、どういう仕事をして、どんな本を読み、いかなる趣味をもっているか、どんな悩みをもっているか、などを的確に分析できれば、それに応じて、選んだ商品やサービスの紹介をすることができるから。
- ④ 以前ほどの経済成長率が見込めない、多くの経済先進国では、インターネットなどの技術革新によって斬新な商品やサービスをうみだし、経済活動そのものを活性化することがもつとも望ましいから。
- ⑤ インターネット上の通信記録から、個人の交友関係や家族構成が分かれば、関連する人々の活動履歴も探り出すことができ、それらすべてを活用することが、ビッグデータによる消費需要の喚起につながるから。

問六

空欄

あ

に入る漢字と同じ漢字が に入るものを、次の①～⑨の中から三つ選びなさい。

(26)

(27)

(28)

- | | | | | | | | | | | | | |
|---|----------------------|----------------------|--------|----------------------|----------------------|---|----------------------|----------------------|------|------|----------------------|---------|
| ① | <input type="text"/> | が知れる | ② | <input type="text"/> | 岐亡羊 | ③ | <input type="text"/> | 器晩成 | ④ | 好事、魔 | <input type="text"/> | し |
| ⑤ | <input type="text"/> | 山鳴動して鼠一匹 | ⑥ | 敷居が | <input type="text"/> | い | ⑦ | <input type="text"/> | 勢に無勢 | ⑧ | <input type="text"/> | 手を振って歩く |
| ⑨ | 天 | <input type="text"/> | く馬肥ゆる秋 | | | | | | | | | |

問七

傍線部4「地震、津波、ゲリラ豪雨、洪水、火山噴火など、突然襲ってくる自然災害の脅威から人々をどう守るか」とあるが、筆者は、自然災害を防ぐことについてどのようなことを述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(29)

- ① 地震や津波などの自然災害を防ぐことは、われわれには不可能であるが、文明化のツケとも言える地球温暖化や森林破壊などの現象が、人為的な誘因と関連していることに疑問の余地はない、ということ。

傍線部 5 ① これ以上のものがない ② 行き届いた ③ 便利な ④ いろいろなことに使える

⑤ 扱いやすい

傍線部 7 ① は無論 ② はまだ不十分だが ③ は相当なもので ④ はそこそこで ⑤ は馬鹿にできないが

(9) (8)

問三 空欄 I に入れるのに最も適当なことを、次の各群の ①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄 I ① 逆風 ② 逆恨み ③ 逆襲 ④ 逆上 ⑤ 逆効果

空欄 II ① 過渡的 ② 局地的 ③ 名目的 ④ 定期的 ⑤ 具体的

空欄 III ① 呼び込み ② 入れ込み ③ 売り込み ④ 絞り込み ⑤ ねじ込み

空欄 IV ① 出鱈目な ② 慎重な ③ 姑息な ④ 大袈裟な ⑤ 不敬な

空欄 V ① 自動化 ② 国際化 ③ 正常化 ④ 初期化 ⑤ 自由化

空欄 VI ① 主役 ② 引き立て役 ③ 後見役 ④ 悪役 ⑤ 当たり役

空欄 VII ① 劇薬 ② 特効薬 ③ 朝腹の丸薬 ④ 内股膏薬 ⑤ 秘薬

空欄 VIII ① 一般論 ② 反論 ③ 暴論 ④ 結果論 ⑤ 各論

空欄 IX ① 同日の論 ② 他人事 ③ 言わぬこと ④ 捨てたもの ⑤ 出る幕

空欄 X ① 生産性 ② 機動性 ③ 利便性 ④ 正当性 ⑤ 普遍性

空欄 XI ① 危機感 ② 満足感 ③ 安心感 ④ 優越感 ⑤ 使命感

(20) (19) (18) (17) (16) (15) (14) (13) (12) (11) (10)

問四 空欄 A に入れるのに最も適当なことを、次の各群の ①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄 A ① もっとも ② つまり ③ 一方 ④ とりわけ ⑤ なぜなら

空欄 B ① さらに ② 要するに ③ だが ④ なぜなら ⑤ または

空欄 C ① だとすれば ② こうして ③ 逆に ④ 特に ⑤ そこで

空欄 D ① ただし ② したがって ③ たとえば ④ というのも ⑤ つまり

(24) (23) (22) (21)

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ① 地震のゼンチヨウ

(1)

② チヨウか、半か

③ ピアノのチヨウリツ

④ チヨウジャ番付

⑤ シュチヨウを貫く

B ① オリンピックのシヨウチ運動

(2)

② チグウを得る

③ シヨチに困る

④ シチに赴く

⑤ トンチを効かせる

C ① トウカクを現す

(3)

② カツカ搔痒そうよう

③ カツコたる信念

④ 時代のセンカクシヤ

⑤ いっぱしのロンカクだ

D ① トチカンがある

(4)

② カンを蓋おおいて事定まる

③ カンタイを受ける

④ カンレイに従って会を行う

⑤ 歌舞伎の『カンジンチヨウ』

E ① 昔の学説をエンヨウする

(5)

② ヨウボウに應える

③ 金属をヨウセツする

④ 皆イチヨウに賛成する

⑤ シヨウヨウとして死につく

問二 傍線部1「賄う」、傍線部3「太刀打ちできない」、傍線部5「きめ細かな」、傍線部7「はおろか」の本文中の意味として最も適当なものを、次の

各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

傍線部1 ① 買い求める

② 調達する

③ 儲もつける

④ 前払いする

⑤ 誂あつちえる

(6)

傍線部3 ① 強く抵抗することができない

② 恨みを晴らすことができない

③ 迎合することができない

(7)

④ 得意げな態度を取ることができない

⑤ 互角に勝負することができない

D

、健康というのは、個人が自分の体調だけ気遣っていれば守れるというものではない。ノロウイルス胃腸炎にせよ、インフルエンザにせよ、伝染病がある地域で広まれば、いやでも周辺の住民はその影響をうけることになる。

すでに医療機関では、患者の受診記録をもとに、こうした伝染病の情報がインターネットを通じてかなり共有されているようだ。けれども、治療に欠かせない予防の効果をあげるためには、それでは足りない。多くの住民が、たとえ軽くても伝染病の徴候をしめすデータを提供しあい、ビッグデータ分析の結果をふまえて行動することが有効なはずである。孤独な都市住民という見慣れた光景は、ビッグデータ時代には必ずしもあてはまらないのである。

（西垣通『ビッグデータと人工知能―可能性と罣^{わな}を見極める』より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある）

でもあるのだ。あえて言えば、われわれ一人一人が有益なデータの形成に参加することが、ビッグデータ活用の鍵をにぎるともいえる。⁶
たとえば、交通問題を考えてみよう。

大都市の交通渋滞が解消されれば、石油使用量の節約になるし、排気ガスによる大気汚染も抑制できる。これまで、大都市の交通状況を刻々と把握し、ドライバーに交通渋滞を回避するよう助言するには、上空をヘリコプターで巡回して、混雑状況を見下ろすレポーターに頼る方法が主なものだった。だが、今後はビッグデータとセンサーを用いて、より効率のよい手段をとることができる。

一つの方法は、道路にセンサーを埋め込んで交通量を測るというものだ。すでに米国カリフォルニアでは、こうした方法で高速道路の状況を把握し、その分析結果は一般に公開されている。ただし、これは費用がかさむので、すべての道路に適用するのは難しいだろう。

もっと手軽な方法として、走行しているたくさんのクルマのGPS付きカーナビやドライバーのスマホから、データを収集することが考えられる。運転中のクルマの位置情報と、より広域的な道路状況とを組み合わせれば、個々のドライバーにとって、事故などによる渋滞を回避し最適なルートを選択する可能性がひらけるわけだ。このような方法を「参加型センシング」と呼ぶ。

もはや、行政当局や民間企業が一方的にセンサーを設置し、ビッグデータを分析利用して一般人にサービスを提供するのではない。サービスジュウシヤ^Eつまり消費者が、積極的にセンサー・データをみずから提供し、ビッグデータの活用に参加するのである。

交通問題だけではない。電力にせよ、水道水にせよ、無駄な消費を減らしていくためには、住民の主体的な取り組みが欠かせないといえる。住民のタの活用にとりくむ相応の努力がもたらまれるのである。

このことは、ビッグデータ時代の住民あるいは市民のありかたを示唆せずにはいない。つまり端的には、われわれ一般人が、一種の「コミュニティ(共同体)」のメンバーであるという意識をもつことが望ましいのである。そして実はこれは次にのべるように、社会インフラだけでなく医療や健康といった身近なテーマとも関連していく。

個人レベルのビッグデータ活用の典型例として、よく健康増進や疾病予防が話題となる。生活する上でわれわれの XI をますために、健康がテーマとなるのは当然のことだ。今でも、一日にどれだけ歩いたかを計測する万歩計を腰につけている人は多い。そしてビッグデータ時代には、スマホだけでなく各種のウェアラブル端末を介して、日常生活を送りながら、歩数⁷はおろか、血圧、脈拍、消費カロリー、睡眠状態、さらには脳波までも計測することが可能になるのである。これらのデータを定期的に医療機関に送信して、医師から助言をもらうこともできるはずだ。自分の身体の状態を自動的にとらえられるなら、たしかに習慣病の予防にも有効だろう。一種の遠隔医療といえるかもしれない。

向上するだろう。

老朽インフラの保守ばかりではない。⁴地震、津波、ゲリラ豪雨、洪水、火山噴火など、突然襲ってくる自然災害の脅威から人々をどう守るかは、社会のセキュリティを担当する行政当局の最大の重要課題のひとつである。このためのビッグデータの活用は、まちがいなく、今後の政府・地方自治体にとって欠かせない仕事になってくるはずだ。

むろん以前から、自然災害に対しては、専門機関による予測とともに、テレビやラジオをつうじた避難^Dカン⁵コクをはじめ、種々の対策がとられてきた。だが今後はさらに、^{もうもろ}諸々の観測データを統合的に処理し、同時に人々の位置情報をも把握することで、より高度できめ細かな対策が可能になる。たとえば、いったん災害が起きたとき、各地域に分散した住民はいつ、どこに避難すればよいだろうか。詳細な地図データとリアルタイムの観測データをもとに、あちこちの住民のモバイル機器に指示を送り、それぞれ最適な避難経路に誘導していく、などの措置をとることも可能になるだろう。

地震や津波などの自然災害を防ぐことは、神ならぬわれわれには不可能というものだ。だが、ゲリラ豪雨や河川氾濫などを考えると、それらが地球温暖化や森林破壊をはじめ、人為的な誘因と関連していることを忘れてはならない。これは文明化のツケともいえる。より直接的には、放射性廃棄物だけでなく、各種の工場廃棄物やクルマの排気ガスによる大気汚染や水質汚染、土壌汚染を何とかしなくてはならない。

これらについては、われわれが目先の利害にとらわれず長期的視野を持てば、明らかに状況は好転するだろう。ビッグデータ分析により効果的な改善と危険防止を見込むことができるはずだ。グローバルな産業化と経済発展にともない、地球環境は急速に劣化しつつある。ここ数年、北極の水がとけて海面も上昇し、北半球の気候変動はかなり異常になってきた。進みゆく地球環境劣化というマイナス面をいかに減らしていくか、ビッグデータを応用したノウハウの研究開発と対策は、われわれ先進国の住民の責務ではないだろうか。

地球環境保護と関連するビッグデータ応用分野は、各種の資源の有効活用と深く関わっている。石油、石炭、天然ガス、さまざまな金属鉱石も、ゆくゆくは尽きてしまう。それだけではない。われわれが生きていくために欠かせない淡水が近々足りなくなる、という声をよく聞く。今でもすでに、地球上の人口の約三分の一は慢性的に生活水の不足に悩まされているようだ。日本は幸い水資源に恵まれているものの、輸入食料に頼っている以上、水不足は

IX

ではない。

保水用の森林資源は大丈夫なのか。GDP（国内総生産）のことを考えているだけでは、安心して生きていけないのである。

ここで大事な点を押さえておきたい。環境保護や資源の有効活用は、行政当局や企業だけでなく、究極的にはわれわれの日常的努力にもかかっているということだ。

つまり、ビッグデータを活用して、社会の安全を保ち、快適な生活環境をつくりあげていくのは、行政をになうお上だけの仕事ではない。一般人の仕事

事情がある。欧米、そして日本もふくむ経済的な先進国は、二〇世紀末からいわゆる産業空洞化に悩まされてきた。国内の労賃が高いので、大量生産される規格品の価格競争では、新興の開発途上国にとっても太刀打ちできない。³そこで生産拠点を労賃の安い開発途上国にうつしたのだが、これは技術ノウハウの流出や国内の雇用不安や失業率増大、さらには経済格差の拡大を招いてしまった。製造業を国内に戻すことが、VII だと見なされているのである。

工場内に人間がいけないのでは、労働者はいらないのだから、雇用不安は解消されないという VIII が出てくるかもしれない。なるほど、そういう面はある。

B、労働の質が変わってくるだけで、製造業に多くの人手が必要なことは確かなのだ。現場の単純作業は不要になっても、製品設計をはじめ、工程管理やロボット保守の仕事もある。何より、データを扱うコンピュータのハード／ソフトの開発維持の手間ははるかに増える。インダストリー4・0といっても、なかなか完全な V というわけにはいかない。高度な製品をつくるスマート工場の運営とは、実は人間の高度な知的労働をたくさん要するのである。

ビッグデータは社会の富を増すだけではない。人々の暮らしのなかでもっとも大切な、社会的安全性(セキュリティ)を高めると期待されているのである。日本にかぎらず、多くの先進国では、二〇世紀につくられた社会インフラがそろそろ老朽化してきた。橋やトンネル、ダムなどが典型例だが、都会の下水や送電設備なども同様である。むろん、定期的な点検はおこなっているはずだが、何しろ量がむやみに多いので、目視などに頼る人間のチェックだけでは事故につながりかねない。

こういう大問題に対して、ビッグデータによる分析や予測は活路を開くだろう。次の例はよく知られているものである。

米国ニューヨーク市では毎年、数百もの電力用マンホールが内部で引火して、爆発事故を起こしていた。爆発すれば重い鉄の蓋がものすごい勢いで吹き飛ばされるので、危険きわまりない。だが、同市の電力ケーブルの総延長は地球三周分以上であり、さらにマンホールの総数はマンハッタンだけで五万をこえるので、危険箇所の特定は容易ではない。 C、電力ケーブルの使用年数と、過去に爆発事故を起こしたマンホールの位置情報とを関連

づけ、コンピュータで分析した。そして危険箇所のリストを作ったところ、リストにあげられた多くのマンホールでその後、現実には爆発事故が起きたのである。つまり、ビッグデータ分析の結果、かなりのカクド^cで、危険なマンホールを予測することに成功したというわけだ。

これは既存データの分析によって危険箇所を特定するという例だが、さらに積極的な事故回避の方法も考えられる。

つまり、より詳しいリアルタイムのデータを取得して、IoTシステムを構築するわけだ。もし古い橋やトンネルなどの各部分の現時点の状態を、張り巡らせたセンサー網から常時ネットに送信し、コンピュータで分析していればどうだろうか。故障が起こりそうな箇所を事前に予測する可能性は飛躍的に

ルで商品イメージを一般大衆向けにバラまくのではなく、入力された検索ワードから消費者の興味を示すことで、はるかに効率のよい広告宣伝活動が可能になるのだ。

Ⅲ

、検索画面上に限られた商品の情報

ビッグデータによって、こういう「個人向けマーケティング」をさらに徹底することができる。ある人が、どんな所に住み、どういう仕事をして、どんな本を読み、いかなる趣味をもっているか、どんな悩みをもっているか、などを的確に分析できれば、それに応じて、選んだ商品やサービスの紹介をすればよい。日常、スマホやパソコンを手放せないわれわれの活動履歴は、インターネットのなかにしつかり埋めこまれているのだから。

それだけではない。個人の交友関係や家族構成が交信記録でわかれば、さらに苦づる式に、関連する人々の活動履歴も探りだせる。これは人脈ならぬ貴重な「金脈」だ。それらすべてをマーケティング用データとして採掘（マイニング）することが、ビッグデータによる消費需要の喚起につながるのである。いま一つ、肝心なことがある。ビッグデータは、消費だけでなく、先進国の生産活動をも変えたと期待されているという点だ。

生産活動の中には、ITを駆使したスマート農業も含まれてくるだろう。いっそう間近な典型例としてすぐ思いつくのは「インダストリー4.0」である。この言葉は「第四次産業革命」を表すとのことで、かなり

Ⅳ

ネーミングだが、二〇一〇年代にはいつて以降、ドイツが国策としてつよく推進している。

端的には、インダストリー4.0がめざすのは「スマート工場」といい。コンピュータやロボットが知的な処理をしてくれる、「頭のよい工場」ということである。対比されるのは、たくさんの方労働者たちが生産ラインにはりつき、単純作業で規格品を大量生産していく従来の「頭の悪い（？）工場」である。

スマート工場の技術的な核心は、右にのべたモノのネットワークIoTと、人工知能だ。工業製品の各種部品と、これをつくる製作機械が、ICタグのセンサーを介してインターネットにつながり、たがいに無線で交信しあう。工場内外の部品の調達や配送など、物流も

Ⅴ

される。コンピュー

タが、生産ラインを流れる半製品と時々刻々データを交換しながら、必要な部品を調達し、設計仕様にもとづいて部品をテキパキと組み立てていく。当然ながら、組み立て作業を実行するのもロボットであり、人間ではない。

Ⅵ

インダストリー4.0以後の工場においては、

は詳細緻密なデータ処理をこなすコンピュータと、その制御のもとにあるロボット群であり、そこに単純作業をおこなう労働者などほとんどいないのだ。

そうして出来上がってくる製品は、これまでのような規格品ばかりではない。クルマにせよ、高級家電製品にせよ、先進国の消費者の個人的な好みにあわせた

あ

品種少量生産のカスタムメイド製品なのである。

こういった技術革新による産業の構造変化をめざしているのは、ドイツだけでなく、EU（欧州連合）諸国、そして米国も同様である。そこには共通の

国語

(解答番号

(1)

)

(57)

)

I

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(六〇点)

世の中にやたらに大量のデータがあふれ出して来た。とはいえ、ただデータを集めただけでは、かえって無用のチヨウブツ^A、エネルギーの浪費ではないだろうか。

いったいビッグデータで何が嬉しいのか?——その回答として強調したいのは、「データが富をうむ」という発想の出現である。

日本だけでなく、多くの経済先進国はもはや、以前ほどの経済成長率が見込めない。その一方、増加し続ける社会保障費のために苦しんでいる。これを賄¹うために増税すれば、国家財政は健全になるものの、景気が悪くなつて斬新な商品やサービスをうみだし、経済活動そのものを活性化することなのだ。

I

をうむかもしれない。もっとも望ましいのは、技術革新によつ

て従来は社会や自然のなかに埋没していた情報を、コンピュータで処理できるデータとして抽出し、分析統合することで、もし、あらたな経済価値が誕生するならば、活路がひらけるのではないか。

A

、われわれの周囲のさまざまな対象の「データフィクション(データ化)」により経済効果が期待できる、という理屈である。

II

には、人々の個別の細か

い好みにおうじた新たな消費需要を、ビッグデータの分析が掘りおこす可能性がうまれるのである。

開発途上国であれば、平凡な規格品でも日常生活での需要は大きい。家電品でもクルマでも、大量生産の商品をテレビで宣伝すれば、人々に大量消費されて経済はどんどん発展する。だが、ひとまず生活用品が行きわたった先進国ではそうはいかない。個人の好みをふまえた、多様なカスタムメイドの商品やサービスでなければ、消費活動はどこおつてしまう。こうして、個人向けのターゲティング広告をはじめ、ピンポイントにしばったマーケティング戦略が不可欠となってくる。

グーグル社の検索サービスにもなう広告宣伝活動が、こういう社会状況とみごとにガッチ^Bしていたことは言うまでもないだろう。テレビのコマーシャ

ご注意

1. 本書の一部あるいは全部について，発行者の許可を得ずに，無断で複写・転写することは禁じられています。
2. 本書の内容に誤り・誤字脱字などございましたら，ご連絡いただけると幸いです。

2019/7/1

発行・制作:広島国際大学入試センター

連絡先:739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台555-36

TEL: 0823-70-4500 FAX: 0823-70-4518

Mail: HIU.Nyushi@josho.ac.jp

URL: <http://www.hirokoku-u.ac.jp/>

Copyright © 2019 Hiroshima International University, All rights reserved.
